

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・大型の4Kテレビの販売が好調なほか、電力の小売自由化により、光熱費に関心を示す客が増えてきた。それに伴い、省エネ家電の販売にも弾みがついてきている。
(近畿)		商店街（代表者）	お客様の様子	・今月中旬ごろから、少しずつ購買意欲が高まってきている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・月末にかけて秋めいた気候になった影響か、富裕層の優良顧客では、冬物の婦人服や紳士服を急に購入する動きが増えた。海外高級ブランド品も、様々なイベントなどで動きが出てきている。
		百貨店（販売推進担当）	お客様の様子	・昔からいわれている、背中を押す行為があれば、客には購入してもらえる。何万円以上の購入につき、今なら何円分のクーポンをプレゼントという企画を実施すると、想定5倍の客による購入があり、想定金額の約3倍の結果が得られた。何かきっかけがあれば、購買意欲が高まることを改めて実感している。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・野菜の高騰が店舗全体の売上増に貢献している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・イトインコーナーが相変わらず人気で、ファーストフードやおでん類の売上が伸びている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・テレビの影響で人気の出た商品が売れている。そのついでに別の商品の購入もみられる。
		都市型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・中国の国慶節に伴う動きも含め、海外のWebサイトからの予約人数が前年比70%増と好調である。
		タクシー運転手	それ以外	・会社に寄せられるハイヤー予約の幅が広がっている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・在庫となっていた物件の販売が進み、品薄となってきた。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	お客様の様子	・悪化しているとはいえないが、野菜、魚、肉など、すべての主要原料が高騰しているためか、安価な商品が売れているように感じる。必ずしも和牛が必要でない場合は、輸入牛で代替される比率が上がっている。魚や野菜は代替できないが、牛肉は豚肉や鶏肉に代替される可能性が高いと感ずるため、ギフトシーズンが不安である。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	それ以外	・野菜の仕入価格が高く、前年の3倍に上がっているが、状況は変わらないため苦しい。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・ぜいたくなし好品のため、販売店の売上が低迷している。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・外国人売上の減少傾向や、富裕層である外商顧客の慎重な購買状況、中心顧客である自社カード顧客の売上減少といった動きは、上半期とほぼ同じである。
		百貨店（販促担当）	単価の動き	・売上の前年割れ傾向が今月も続いている。来客数は前年を超えそうであるが、客単価が落ち込んでいる。主に衣料品を中心とした高単価品の動きが鈍い。気温が下がりきらず、購買意欲の上まらないまま、低迷が続いている。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月も催事が好調で、特に北海道物産展や恒例のインナーウェアバーゲンが好調に推移した。先月からの傾向で、秋物の婦人、紳士、子供服は苦戦しており、店全体では前年実績の確保が難しい状況であるが、入店客数やレジ客数は前年よりも増加している。
	百貨店（商品担当）	販売量の動き	・月前半は雨が多く、気温も高めであったため、ファッション関連を中心に、冬物の動きが悪かった。月半ばから気温が低下し、動きが出てきたものの、前半分を取り返すまでには至っていない。一方、外国人客の売上は、単価が下がっているものの、何とか前年の水準を維持している。また、催事は食品を中心に好調となり、集客面でも貢献している。	
	百貨店（営業企画）	お客様の様子	・客単価の低下が顕著で、強い節約志向が感じられる。	
	百貨店（売場マネージャー）	販売量の動き	・気温が下がってきた下旬になり、ようやく動きが活発化している。衣料品の販売数量としては、月合計で前年並みを確保したが、重衣料は上旬の不振で単価がややダウンした。食品などの催事強化でファッション以外も堅調に推移したことで、店舗としては前年実績をクリアしている。	

スーパー（店長）	来客数の動き	・生活防衛意識が更に強くなり、客がディスカウント業態へ流れている。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新店舗をオープンしたが、競合店の影響で想定したほど売上が上がり、苦戦している。9月は既存店売上の前年比が97%、10月は新店舗を含んで100%と、ぎりぎりの状態である。気温の高い日が続いているので、飲料系の売上は前年を上回っているものの、菓子はマイナスである。ここへきて秋冬商材が動き出している一方、生鮮品は総菜部門以外、前年を下回っている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・9月の雨の多さや気温の高さが落ち着くにつれ、売上は回復基調にある。ただし、ハロウィーン商戦が盛り上がりを見せたものの、影響は限定的である。
スーパー（管理担当）	販売量の動き	・来客数は低い水準で横ばいであり、購買点数も上向いてこない。
スーパー（社員）	販売量の動き	・全国的な天候不順の影響は、客の来店回数の減少ばかりでなく、商品確保も難しくなり、野菜などの生鮮食品価格の上昇につながるなど、店頭には大きな影響がみられる。結果として、客が1回当たりに購入する商品の数量が、やや減少傾向となっている。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・ここ数か月は、来客数や販売も変化なく推移している。サラダ類の価格を据え置いていることが、良い影響を及ぼしている。
コンビニ（店員）	来客数の動き	・来客数の減少に伴い、売上も伸び悩んでいる。
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・客の財布のひもが固く、家電製品の買換えサイクルが伸びており、販売量が増えない。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・店舗の改装や、オープンに伴って、販売量自体は前年よりも増えているが、単価は低い。高額商品についても、客はまだ購入時期を考えるなど慎重であり、買い渋りが目立つ。決して景気は良いとは感じられない。
乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・9月の中間決算を終えて、再び低調な来店、受注状況に戻っている。年末にかけて多くの点検、車検を迎えるユーザーを抱えており、早い段階で買換えなどの促進を行っているが、今は支出を抑える方法を考えるユーザーが多い。
その他専門店【医薬品】（経営者）	単価の動き	・商品の味や内容に大きな差がある場合は、価格の高い商品でも購入する傾向があるが、あまり中身や味が変わらない物については、特に生活に大きな支障がなければ、単価の低い商品を優先する傾向がある。
その他専門店【宝石】（経営者）	お客様の様子	・金の価格は高いまま推移している。為替レートの変動や、欧米、中国の株価の動きが日本の株価にどう影響するかにより、これからのビジネスは左右される。
その他専門店【宝飾品】（販売担当）	お客様の様子	・来客数が少ない。高価格帯の商品については、いくら購入意欲があっても、やはり決済に進むのはなかなか難しい。
その他専門店【スポーツ用品】（経理担当）	販売量の動き	・景気の上昇感、停滞感共に、全く感じられない。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・10月は客の動きが総じて鈍くなるので、予約の少ない日も多かったように感じる。
高級レストラン（企画）	来客数の動き	・足元の来客数や、単価の動きが鈍い。また、先の企業宴会の受注の動きも、前年と比較して鈍い状況となっている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数の変化が大きい。単価の少し高い物がよく売れたり、ケータリングの売上が伸びたりと、客単価が徐々に上がっている。緩やかな景気の回復を感じるが、同時に仕入単価も上がっているため、利益面に大きな影響はない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・野菜の高騰で消費者の財布のひもが固く、外食の機会が減っている。夜はプロ野球の日本シリーズがあったため、来客数が減少した。近隣の飲食店も来客は少なかったと聞いている。
一般レストラン（企画）	来客数の動き	・10月に入り、来客数の動きは少し上向き傾向となったが、変化が感じられる水準ではない。ただし、関西は来客数が微増ながら、客単価は他地域よりもアップしており、売上の前年比は全国で最も高い水準となっている。

	その他飲食 [コーヒー ショップ] (店 長)	来客数の動き	・前月は平日が多く、当社にはプラスとなったが、今月の来客数は前年並みで、変化は乏しい。
	観光型ホテル (経営者)	販売量の動き	・10月も前年の水準を下回った。やはり、団体客の受注が期待どおりに取れなかったことも原因に挙げられる。
	観光型旅館 (管 理担当)	お客様の様子	・連休があったにもかかわらず、コテージでの連泊客が相変わらず少ない。
	観光型旅館 (団 体役員)	来客数の動き	・耐震工事などで受入可能な人数が減少しているため、宿泊人員は前年比で8割程度にとどまっている。街の様子についても、特に良くなっている印象はない。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・インバウンド効果で宿泊の高収入が続いていたが、宿泊料金の大幅なアップにより、稼働率は高水準ながらも、前年比で少しダウンした。ただし、客室収入はいまだに前年比で7%ほど増えている。一方、前年並みで推移していた宴会収入が、ここ最近ではプラスに転じている。企業の業況がここへきて上向している可能性がある。
	都市型ホテル (管理担当)	販売量の動き	・海外からの宿泊者は依然として好調に推移している。ただし、中国からの旅行者に関しては、団体旅行から個人旅行へ変化してきている。それに伴い、宿泊者数は団体客ほど増えにくくなってきている。
	都市型ホテル (総務担当)	来客数の動き	・国内のレジャー層と外国人客の宿泊者が減少している。外国人はアジア圏からの宿泊者が減少しており、ここ数か月はその傾向が続いている。
	旅行代理店 (店 長)	お客様の様子	・来客数が少なく、旅行に関する相談も減っている。
	旅行代理店 (営 業担当)	販売量の動き	・10月以降も上半期と同様に前年を下回っており、好転する兆しがない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・大きな展示会や催し物があれば、利用は増えるが、それ以外はタクシーの動きは悪くなる。季節的に汗もかかないため、タクシーの利用は少ない。
	タクシー運転手	単価の動き	・客の出入りが良くなっている気配はあるが、最終的には先月と変わらない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・過ごしやすい季節となったが、前月、前々月と同じく、大きな営業収入の変化はない。
	通信会社 (経営 者)	お客様の様子	・客の受注状況に、大きな変化はみられない。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・来客数の減少傾向が気になる。ほかの施設や観光名所なども、似たような傾向だと聞いているので、人が出かけること自体が減っているのかもしれない。
	その他レジャー 施設 [イベント ホール] (職 員)	お客様の様子	・来客数などには大きな変化がなく、売店などでの購買意欲にもあまり変化はない。
	美容室 (店長)	販売量の動き	・化粧品の売上は良かったが、値引きの結果であり、利益率が下がっている。
	美容室 (店員)	販売量の動き	・ネイルケアなどの新しいメニューを始めたので、単価は上昇しているが、秋になって髪を伸ばす人が増え、来店周期が延びている。
	その他サービス [ビデオ・CD レンタル] (エ リア担当)	販売量の動き	・書籍の全国的な売行きは良いが、狭小店舗の多い当エリアは大きく前年割れしている。
	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・相変わらず不動産の流通量が減少している。
	商店街 (代表 者)	お客様の様子	・平日の来客数が減少しており、客足の引きが早い。
	一般小売店 [珈 琲] (経営者)	競争相手の様子	・同業他社と営業活動がバッティングする頻度が減っている。

一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	販売量の動き	・今年10月と7月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均で見ると、関西は10月が93.1%で、7月が95.7%、関東は10月が93.0%で、7月が103.3%、中部は10月が101.8%で、7月が90.9%、中国は10月が150.5%で、7月が96.7%となり、各地区合計は10月が102.7%で、7月が96.1%となった。一見すると好調のようであるが、関西、関東共に大きく前年を下回っており、非常に厳しい状態である。先月と同様に、中国地区は特にプロ野球チームの優勝による影響が大きく、大幅に伸びてはいるが、一過性であり、継続するものではない。
一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	お客様の様子	・本当に客の購買意欲が高くないため、卸売も小売も苦戦している。
一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・10月に入ったというのに、予想外の暑さで冬物衣料の売行きが悪い。本格的に寒くなれば、少しは動きも出てくるが、通常は好調なシーズンである10月に、販売量が上がらないのは痛い。
一般小売店〔花〕（店長）	販売量の動き	・9月の台風や豪雨の影響で、花の価格が高騰している。販売価格の高騰の影響はまだまだ続くと予想される。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は売上目標を達成できる見込みである。ただし、一部の高額品が寄与している状態で、内容は良いとは言い切れない。特に、中間層を対象としたボリュウム商品は、気温が高かったこともあるが、季節商材の動きが良くない。さらに、インバウンドの動きも良くないほか、客のファッション商品に対する節約志向がより鮮明になってきている。
百貨店（売場主任）	販売量の動き	・衣料品、高額品共に、売上は前年から10%近く減少し、外国人観光客の売上も5%減で推移している。ただし、化粧品や身の回り雑貨は5%増えている。天候の影響を差し引いても、全体的に消費者の財布のひもは固い。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・ボリュウム層に対応した衣料品の動きが更に鈍化し、高額商品の販売量も減少傾向にある。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・気温が高いためにファッション関連が悪いほか、菓子や総菜関連の食料品の動きも悪くなっている。
百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・直近の来客数は前年から微増となったものの、買上点数はマイナス6%となっている。入店が買上につながっていない状況が、直近の3か月で顕著となっている。
百貨店（服飾品担当）	お客様の様子	・前月に続き、売上は大きく増えず、気温要因と顧客の購買意欲の低下による売上不振の影響がほぼ半々となっている。衣料品関係の売上が、インバウンド、国内客共に回復せず、化粧品が前年比で104%、プライダル商品が103%と、必要不可欠な物だけが好調に推移している。衣料品は軒並み95%となっており、婦人服、紳士服、子供服共に、重衣料の動きが悪い。防寒商材の追加生産を各メーカーが発注しないため、この状況は来年1月まで続くことが予想される。
百貨店（外商担当）	販売量の動き	・気温の高い日が続き、秋冬物の衣料品の売上が低迷している。時計売場を拡大してリニューアルオープンしたが、売上は予想よりも低調に推移している。
百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・10月中旬まで気温が高く、秋物衣料の売上は前年比で70%と落ち込んだ。下旬になって気温が低下し、ようやく動きが出てきたが、85%までの回復にとどまっている。入店客数が1.2%減、買上客数も1.3%減と悪く、客単価が4.8%上昇し、休日も1日多いものの、売上全体は前年比でマイナスとなっている。
百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・7月以降、入店客数と売上の減少が続いている。特に、若年層から40代を中心した現金、クレジットカード利用者による、婦人服の購入が厳しい。シニアの富裕層による買上も止まっている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・ようやく朝晩の気温が下がってきたが、秋冬物の衣料品、身の回り品の動きが鈍い。また、食品は農産品の高騰の影響が、それ以外の商品での節約傾向がみられる。
スーパー（店長）	お客様の様子	・昨年はプレミアム付商品券の影響で好調となり、その反動は残っているものの、底は打ったと感ぜられる。来客数も回復傾向にある。

	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は横ばいであるが、単価が伸びていない。
	スーパー（店員）	単価の動き	・野菜の価格が高過ぎたので、半分のサイズで売った物やカット野菜、値引きした商品しか、あまり動きがない。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は変わらないが、昼食が弁当類からパンやおにぎりに変わり、コーヒーや飲料水は単品買いとなっている。
	コンビニ（広告担当）	お客様の様子	・野菜などを中心に価格の高騰が続いており、財布のひもは固い感がある。
	コンビニ（店員）	お客様の様子	・新商品やハロウィーン向けの動きは良いが、来客数が減っており、売上はやや下降気味である。
	衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・シーズンにかかわらず客の買い控えは続いており、これからも続く予想される。
	家電量販店（人事担当）	来客数の動き	・オーバーストアとインターネット通販により、実際の店舗での買物が減少していると感じる。
	乗用車販売店（営業企画）	来客数の動き	・来客数が激減している。
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・最初の接客から商談までに時間のかかる客が増え、受注までの営業コストがアップするケースが増えている。買物に慎重で、財布のひもが固い動きは、より一般的になっている。
	その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	お客様の様子	・平年よりも高い気温が続いたことで、秋物の動きが非常に悪い。従来よりも高価格帯の寝具など、今まで提案できていなかった商品を出しているが、目立った反応はみられない。
	一般レストラン（経理担当）	来客数の動き	・円高でインバウンドの来店が減っている。また、台風などの天候要因で来客数が伸び悩み、景気悪化の一因となっている。
	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	お客様の様子	・気温の変化に左右されるが、日中または1日ごとの気温の上下が激しく、ホット、コールドの対応が追いつかない。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・一部の顧客が価格に慎重になり、様子を見ているような動きがある。
	都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・台風の影響で、2～3か月前とほとんど変化がなく、状況はかなり悪化している。
	旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・オリンピックが終わると、通常はその方面への旅行需要が伸びるが、ブラジルに関しては客の動きがほとんどない。また、紅葉のシーズンであるが、まだまだ予約が少なく、個別の客に声をかけてもなかなか需要が伸びない。
	旅行代理店（役員）	販売量の動き	・主要な旅行先である関東のテーマパークや九州方面が伸びず、ほかの方面ではカバーしきれていない。海外旅行も欧州向けは前年比で60%程度にとどまる。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・リオデジャネイロオリンピックの特需もあまりなかったほか、年末に向けて下降気味である。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新築マンション、戸建住宅共に、販売センターの集客が落ちているほか、来場しても契約に至る割合が低下している。
	住宅販売会社（総務担当）	販売量の動き	・例年、年末を控えて受注量は微増傾向となるが、今年は伸び悩んでいる。
	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	それ以外	・不動産の取引件数が減少していると感じる。
	その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場の10月の来場数は、昨年よりも1割近く減少している。
	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・分譲マンションの販売現場での集客は、価格の高騰による購入検討客の減少など、一部の物件を除いて低調な状況が顕在化している。
x	一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・天気の良い日、悪い日共に客は来ず、開店休業の日が何日かあった。天気が良ければ行楽に流れ、悪ければ大きなイベントのある商業施設に流れるなど、客足を取られており、路面店としては厳しい結果となった。特に需要がない限り、なかなか足を運んでもらえないところに大きな課題がある。

	x	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・今年は9～10月にかけて雨がが多く、気候の影響が大きかったために秋物が売れなかった。昨年は夏物が在庫として残ったが、今年は夏物と秋物が残っている。
	x	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・来客数の減少傾向が継続している。そのうえ、買物目的の来街者自体が減っている。
	x	競輪場(職員)	単価の動き	・今月の客単価は9,422円で、3か月前の客単価の10,037円よりも下がっている。
企業 動向 関連 (近畿)	-	-	-	-
		化学工業(管理 担当)	受注量や販売量 の動き	・販売数量が前年比で約8%増加している。
		プラスチック製 品製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・東京からの引き合いが増えている。東京の加工業者がオーバーフロー状態にあるらしく、しばらくはこの動きが続くと聞いている。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・海外向けの自動車部品関連が好調に動いており、このまま12月まで続きそうである。
		建設業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・10月に入って、受注が決まり始めてきた。年度末に向けて、動き出している感じがする。ただし、延期になっている案件もある。
		広告代理店(営 業担当)	受注量や販売量 の動き	・リオデジャネイロオリンピック以降、テレビスポットCMが予想以上に好調である。
		繊維工業(団体 職員)	受注量や販売量 の動き	・10～11月は、当地域ではタオルの最需要期となるが、受注の動きがあまり感じられない。
		パルプ・紙・紙 加工品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・季節的要因を除けば、変化はない。
		出版・印刷・同 関連産業(営業 担当)	受注量や販売量 の動き	・全体の売上は少し上がっているが、顧客別にみると、数字の上がっている顧客よりも、下がっている顧客の方が若干多くなっている。
		電気機械器具製 造業(経営者)	取引先の様子	・自動車業界は生産が比較的活発であるが、生産設備の動きは低調である。そういった部分からも不透明感を感じる。
		電気機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・取引先からの引き合いは増えて、活発になっている。特に海外からの引き合いが増えているが、なかなか売上増にはつながっていない。海外は新規顧客がほとんどで、結果が出るまでに時間がかかっている。一方、国内では企業が非常に弱気で、なかなか成果が出ない。一層の工夫と努力のほか、成果が出るには時間が必要という思いで頑張っている。
		電気機械器具製 造業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・受注の低迷が続いている。
		輸送用機械器具 製造業(経理担 当)	受注量や販売量 の動き	・自動車産業からの受注に下支えされ、大きな変動を免れている。それ以外の引き合いも出てきているが、先行きの不透明感はぬぐえない。
		その他製造業 [事務用品] (営業担当)	受注量や販売量 の動き	・例年と比べて、受注量に変化がない。
		建設業(経営 者)	競争相手の様子	・好決算企業を得意先に持つ建設会社は、現在も設備投資が好調のため、案件はある。ただし、技能労働者、監理技術者不足のなかで、厳しい価格競争が続いている。
		建設業(経営 者)	受注価格や販売 価格の動き	・最近では富裕層の顧客も、予算が厳しくなってきたように感じられる。
		輸送業(営業所 長)	受注量や販売量 の動き	・事務所の移転業務をしているが、関東は大型移転を含めて案件は多い一方、関西は乏しい。
		金融業[投資運 用業](代表)	それ以外	・ここへきて株価が底堅い動きをしているが、まだまだ水準は低い。このまま上がれば、若干景気にも影響が出るだろうが、そこまでの強い値動きではない。
		新聞販売店[広 告](店主)	受注量や販売量 の動き	・購読数は何とか維持しているものの、折込件数が減少しており、全体の収益が落ちている。
		広告代理店(営 業担当)	受注量や販売量 の動き	・紙広告は依然として悪く、Web広告も前年を下回る動きが続いている。
		経営コンサル タート	受注量や販売量 の動き	・コンサルタント業界では景気の回復や上昇がみられず、うまくいっても横ばいの状態である。
		その他サービ ス[自動車修理] (経営者)	取引先の様子	・景気が大きく変わる要素はない。
		食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・気候が穏やかになり、食の秋で少しは良くなると期待していたが、月後半には少しずつ伸びがなくなってきた。小売業は全体的に低調で、足を引っ張られているように感じる。

	食料品製造業 (経理担当)	受注量や販売量 の動き	・インバウンドによる安い商品の大量購入が減少している。	
	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量 の動き	・気温が急激に下がり、飲料水の売上も減少している。	
	繊維工業(総務 担当)	取引先の様子	・消費者向けの催事では売上がダウンしている。集客はあっても、来店客の顔ぶれが変わっておらず、売上が伸び悩んでいる。	
	金属製品製造業 (営業担当)	受注価格や販売 価格の動き	・円高によって輸出価格が下落し、採算が悪化している。	
	一般機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・現在は受注残があるので、短期的に問題はない。	
	金融業(営業担 当)	競争相手の様子	・企業間の価格競争が激しい。	
	不動産業(営業 担当)	取引先の様子	・神戸からますます企業が撤退し、事務所や社宅のニーズが減少している。空室率が上がり、賃料も下がっている影響で、景気が悪くなってきている。	
	その他サービス 業[店舗開発] (従業員)	受注量や販売量 の動き	・今月は、台風の影響もあって雨がやや多かったことに加え、気温も高低差が激しく、冬物商材が振るわなかった。一方、大阪市内の環状線沿線で開催されたイベントは、おおむねにぎわう形となっている。	
	その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	取引先の様子	・輸出関連企業が得意先で多いため、円高の影響で受注は非常に少なくなってきている。このまま円高が推移すると、悪い状況が続く。	
	その他非製造業 [衣服卸](経 営者)	受注量や販売量 の動き	・夏以降、全体的にチェーンストアは厳しい状況が続いているが、取扱商品がタオルのため、夏の間は特売によって売上を確保することができた。一方、秋以降はタオルの需要期ではないため、通常の売場で定価販売が中心になると、売上の組立てが難しくなってくる。	
	×	化学工業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・9月までは何とか昨年並みの売上を保っていたが、10月に入り、10%以上も一気に売上が落ち込んでいる。
	×	その他非製造業 [商社](営業 担当)	受注量や販売量 の動き	・屋外広告などのサイン業界でのLED価格が落ちており、案件数もかなり減っている。
	×	その他非製造業 [電気業](営 業担当)	受注量や販売量 の動き	・景気動向が見通せない。
雇用 関連 (近畿)	-	-	-	
	人材派遣会社 (支店長)	求職者数の動き	・年度末に向けて、少し動きが出てきている。	
	人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・30代までの若年層や中高年層でも、即戦力となり得る求職者については、採用の決定スピードが上がっている実感がある。	
	アウトソーシング 企業(管理担 当)	それ以外	・今月中旬ごろから仕事が入っているため、良い状況である。	
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・季節調整済みの有効求人数が過去最高の水準で推移しており、新規求人の動きも良い。	
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・3か月前に比べ、新規求人数、新規求職者数、就職件数は、それぞれ17.7%、7.8%、1.0%増加している。また、新規求人倍率も0.14ポイント上昇していることから、雇用環境は引き続き良好と感じる。一方、産業別の新規求人数では、製造業が著しく増加した半面、建設業や運輸郵便業が約10%の減少となっている。なお、宿泊業や飲食サービス業では約33%の増加となっており、引き続き堅調に動いている。	
	民間職業紹介機 関(営業担当)	求人数の動き	・季節的な動きもあるが、年末に向けて求人数が増加している。内容としては、年末調整業務、営業事務が増えている。	
	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・年末に向けた慌ただしさが、今年は派遣業界に出てきていない。企業、派遣先共に、じっくりと待ち、良い人材がいれば採用するという意識が感じられる。ただし、人材不足は否めない。一方、IT業界では特有の現象が出ており、特定言語の案件に需要が集中し、そのほかのIT技術者が余っている。	

	人材派遣会社 (役員)	採用者数の動き	・10月1日から、一定規模以上の企業では、パート勤務者の収入が106万円を超えると社会保険に加入する形となるため、年末に向けて106万円を超えないように調整する動きが増える。年末調整業務などの繁忙期にパート社員不足が予想されることから、パートの採用意欲が盛んになってきている。一方、全般的な採用意欲は前月と変わっていない。
	新聞社 [求人広告] (管理担当)	求人数の動き	・今月も、新聞求人に国内景気の方向性を示すような大きな動きはないため、景気は変わらない。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・新聞広告の推移をみると、3か月前とほぼ変わらない。リオデジャネイロオリンピックの影響が一段落した模様。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・直近の求人数は前年比で6.7%減少し、14か月ぶりに減少に転じた。ただし、大手飲食チェーン店による求人数の整理、圧縮が要因であり、それを除く求人数は増加している。また、求人数が増えている業種は、卸・小売業、学術研究・専門・技術サービス業などであり、事業所への景況感に関するヒアリング結果では、普通という回答が多い。
	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・英国のEU離脱問題の影響はないが、海外との取引がある企業には、為替の変動による受注への影響が続いている。
	民間職業紹介機関 (職員)	求人数の動き	・日雇い求人数は9割を建設業が占めているが、昨年の水準を若干上回って推移している。
	民間職業紹介機関 (営業担当)	求人数の動き	・求人数に特に変化が感じられないため、良い状態が続くと予想している。
	学校 [大学] (就職担当)	それ以外	・近隣のスーパーに時々出かけるが、新鮮な野菜を中心に非常に価格が上がっており、一度に買う買い物かごの中身が少なくなっている。生活防衛が進み、消費が伸びていないことを痛感する。
	アウトソーシング企業 (社員)	雇用形態の様子	・大阪府の最低賃金は上げられたが、最低賃金以下の企業でなければ変化はない。
	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・求人数は多く、特に今まで定期的に採用できなかった企業の動きが多い。大手企業については、少し採用を絞る様子がみられる。
	x	-	-